

第150回国際高官セミナーに参加して

東京地方裁判所

判 事 金 子 大 作

私は、平成24年1月12日から同年2月9日まで、国連アジア極東犯罪防止研修所（以下「アジ研」といいます）において開催された第150回国際高官セミナーに参加いたしました。現在は、セミナーが終わって数週間が経ち、終了直後の虚脱感からは脱してセミナー以前の日常に立ち戻っております。それでも、ふと寒かった時期の熱い1か月間の出来事が思い出され、まさに現実のことであったのに、夢であったような気持ちになることがあります。今回の研修で感じた想いが鮮明なうちに感想を述べさせていただきます。

本セミナーのテーマは「人身取引」であり、コースカウンセラーを含む海外研修員14名（バングラディッシュ、エルサルバドル、ホンジュラス、インドネシア、パプアニューギニア、タイ、フィリピン）、日本人研修員7名が参加しました。それぞれの研修員のバックグラウンドは、裁判官、検察官、警察官、海上保安官、入国警備官、矯正施設職員、保護観察官、立法担当者など様々でありました。実は、私自身、今回のテーマについて馴染みが薄く、個人発表の内容でも少し困ることになりました。しかし、様々なバックグラウンドを持った各国研修員及び日本人研修員の個人発表、専門家による講義、研修員同士の議論（2班に分かれてのグループワークを含む）等を通じて、問題の深さと広がり、各国の現状、特に日本の置かれた立場や各国との関係について学び、問題解決のための方策、その為の国際協力の重要性を理解することができました。各国からの研修員は、それぞれ立場は違えども心は誠に熱い方ばかりであり、この問題に関わる専門家として目指すところは同じであることを感じました。私自身は、この問題について裁判官という立場で何ができるのかという問いの答えを具体的に見出すことはできませんでした。しかし、海外からの招聘専門家であられたマーティン・フォーク氏に食堂（ラウンジA）で質問させていただいた際、「最も大切なことは学ぶこと、知ろうとすること」というお言葉を頂戴しました。シンプルで、

当たり前のことなのかもしれませんが、思わずはっとしたことを覚えております。この問題についての学識・経験が浅い自分にできることは、学ぼうとすること、知ろうとすること、実際に学ぶことだと思い、これからも実践していこうと思っております。そして、セミナーの最後のセッションでも申し上げましたが、このセミナーに参加したことにより、自分の専門家としての意識がこれまでよりも一歩先に抜けることができたように感じます。

次に、国際的なネットワークの構築ということがセミナーのテーマの1つであるということも肌で実感いたしました。海外研修員及び日本人研修員の皆様と、1か月もの間、同じ場所で一緒に勉強し、同じ寮で一緒に生活し、同じ食堂で一緒に同じ食事を摂り、「ラウンジB」で一緒に過ごしました。週末毎に、海外研修員の方々の興味や関心も踏まえ、また、日本人研修員の発案もあり、様々な場所に一緒に出掛けていくなどしました。本当にいろいろなことがありましたし、いろいろなことを話しました。「同じ釜の飯を食う」とはまさにこのことであり、研修員同士は、始めこそぎこちなかったものの、それほど時間が経たないうちに我々を隔てていた何かが無くなっていきました。とりわけ私などは言葉の障壁のためにコミュニケーション自体に苦しむこともありましたが、皆様は優しく接してくださいました。海外研修員の皆様は、きっと母国が、ご家族が恋しい時期もあったと思います。今年の日本の1月から2月にかけてはとても寒く、雪も降りました。我々日本人研修員の何気ない言動に不快感を持たれたこともあったかもしれません。それでも、皆様は、我々日本人研修員と辛抱強く、優しくお付き合いくださいました。日本のことをより深く知ろうと努力されていました。言葉の障壁についても、ある海外研修員は、たとえ話が専門的な内容であっても、一所懸命伝えようとすれば伝わるということを教えてくださいました。そして、セミナー終盤には、京都・広島方面への研修旅行、2班に分けてのグループワークがあり、これらの場を通じ、より一層お互いの理解が進み、公私共に交流が深まったと感じます。

我々は、法律に携わる専門家であり、今回のテーマとなった厳しい現実に対して、厳然と対処しなければならない責務を負っています。何が世界の人々のためになるのか、そのために何ができるのかについて、国は違い、今は互いの距離も離れましたが、

今回の研修員達が手を携え、一所懸命に考えていきたいと思います。私がセミナーを通じて感じた仲間との一体感、連帯感、決して幻想ではないと思いますし、この国際協力ための素地はできたと思います。現に、様々なツールにより連絡を取り合っている現状があります。参加した研修員各位の今後のご健康とご活躍を祈らずにはられません。

最後に、一言申し上げます。今回は第150回という節目のセミナーでした。アジ研のセミナーに実際に参加させていただいて感じたことは、アジ研の目指す理念の素晴らしさ、その為の実践の奥深さです。佐久間所長、宇川次長、今回のセミナーの主任教官であられた多田教官を始めとする教官の皆様、議論と研究の環境を整えてくださったアジ研のスタッフの皆様、JICA 及びアジア刑政財団の関係者の皆様など、全ての方々が我々研修員を守り、育ててくださいました。どうもありがとうございました。このような伝統が培われてきたからこそ、これほどまでに長く、国際的に意義のあるセミナー等が続けることができているのだと思います。私は、これからもアジ研のファンであり続けたいと思います。そして、いつの日か、何らかの形で貢献できる日が来るよう、研さんを重ねたいと思います。